

令和3年6月1日

学校だより

東京都立石神井特別支援学校



学校におけるがん教育

副校長 小川達夫

衣替えの時期を迎え、道行く人々の装いにも夏らしさが感じられるころとなりました。まもなく梅雨入りの季節となります。梅雨に入りますと蒸し暑さが増してきますので、学校でも、適切な冷房の活用、適宜水分補給をする等、子供たちの体調管理に努めて学習活動を進めて行きます。

さて、皆さんは、がん教育という言葉をお聞きになったことがありますでしょうか。御存じのようにがんは、日本人の死因の第一位で、生涯のうちにがんにかかる可能性は、二人に一人とされています。国は、がん対策基本法（平成18年）の下、がん対策推進基本計画を策定し、がん教育の取組を推進しています。学校においても、がん教育の充実が図られるようになり、全国の小中高の半数以上の学校が、がん教育を実施しています。

本校でも、去る5月25日（火）に、がん治療の専門医である帝京大学医学部附属病院の渡邊清高医師を外務講師としてお招きして、中学部3年生が、がん教育の授業を受けました。渡邊先生には、授業をするにあたり、事前に授業の様子を見学していただき、生徒たちが理解しやすいイラストを使用した教材を御準備いただきました。

授業当日、生徒たちはいつもとは違った雰囲気の中、始めは緊張した様子でしたが、渡邊先生が、わかりやすい教材を使って、優しく話をしてくださり、クイズ形式でやり取りとしているうちに、次第に生徒たちは、授業に引き込まれていきました。

「がんにならないためにすると良いことは何か」という問いに対して、生徒たちはプリントに描かれたたくさんのイラストの中から「運動をする」「野菜を食べる」「検査を受ける」「たばこを吸わない」等の絵を選んで丸を付けることで、一人一人が考えて、回答することができました。この学習で、生徒たちは、がんにならないために健康的な生活をするとはどういうことかを知り、意識することができました。

また、「もしも身近な人が、がんになったらどうしたらよいか」という内容では、病気になってつらい思いをしている人に思いやりの気持ちをもって、いつも通り話をしたり、一緒に過ごしたりすることが大切であると教えていただきました。その説明を受けた後の質疑応答の場面では、「早食いは、がんになりますか」「生活習慣の乱れとはどういうことですか」「電子たばこは、がんになりますか」など考えて尋ね、渡邊先生は、一つ一つ丁寧に答えてくださり、質問をした生徒も答えが分かり、納得した様子でした。

最後に感想を発表した生徒が「よく食べて、よく寝て、健康的な生活を送りたいと思います」と言いました。授業で伝えたい大切なことを生徒たちがしっかりと受け止めていたことがうかがわれました。

病気にならないために、毎日、健康的な生活を送ることについて、御家庭でも話題にいただけたら幸いです。